

Color Gallery

ヘッドライン

化学遺産、遺跡をたずねる Part 2

日本における化学工業の歴史は残念ながら化学の教科書で触れる機会はほとんどない。今回のヘッドラインでは日本の化学工業の歴史について特集した。100年を越える化学産業と化学技術の発展を、貴重な資料とともに紹介する。P4-19



■小川正孝のニッポニウム発見—その劇的な展開

ニッポニウムは小川正孝が1908年に発見を報告した元素名である。しかし、追試が成功せず、幻の元素のように思われていた。その後、現代化学的再検討によって、ニッポニウムの実体は75番元素レニウムと判明した。写真は化学遺産に選定された小川正孝の遺品のルツボ（左）とガラス器具（右）である。

P4-7 吉原賢二「小川正孝のニッポニウム発見—その劇的な展開」より



■日本初のベンゼン精留装置と合成染料の歴史

1856年に世界で初めて合成染料が作られた。我が国の合成染料工業を切り開いた由良浅次郎はアニリン合成の工業化に取り組んだ。由良が独学で設計を行ったベンゼン精留装置の完成は、染色業界の窮地を打開した。写真は残存するベンゼン精留装置を仮復元して展示している本州化学工業株式会社の記念塔である。

P8-11 吉留 勲「日本初のベンゼン精留装置と合成染料の歴史」より